

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6  
サンコート新千葉102号  
E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp  
TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263  
発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター  
2022年11月10日発行 第101号 1部100円 <https://chiba.gekijou.org/>

# ぐるっと房総



2列目の左端が宇野さんです。11月1日(火) 10:30~  
ホテルポートプラザちば2F ロイヤルにて

## 理事長 宇野京子さん



理事長の宇野京子さんが芸術文化の部で「千葉県教育功労者」として表彰されました。「千葉県内の子どもの成長発達を保障する生活文化環境を創る」ことをミッションに掲げ、長く子どもに向けての芸術文化を千葉県中に拡げてきました。芸術の力は、子どもたちの自己肯定感を高め、コミュニケーション力や自己表現力を醸成し「生きる力」になること、また人格形成の芽を育む乳幼児期の成長発達や親子の愛着形成にも、高い効果が期待できるこことを実感しています。この受賞を励みに、今後も芸術の公益性を社会に発信し続けて参ります。

### 宇野京子さんの功績内容(千葉県教育委員会資料より)

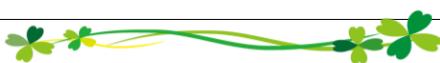
平成19年に特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター理事に就任後、平成25年より理事長を務める。

病院・児童福祉施設に入所している子どもたちを対象としたワークショップの実施や、文化庁からの委託を受け、千葉県内の小学校・特別支援学校に芸術家を派遣し、講話・実技披露・実技指導を行う「芸術家の派遣事業」等を通して、子どもが文化芸術に触れることのできる環境づくりに尽力するなど、本県の文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

分野	被表彰者数 (個人)	被表彰者数 (団体)	合計
教育行政の部	7	-	7
学校保健の部	15	-	15
芸術文化の部	8	3	11
社会教育の部	5	2	7
学校教育の部	46	16	62
合計	81	21	102



宇野京子さんのコメント  
学校や施設の職員の方々、芸術家、コーディネーターの皆様が事業に共感して、共に丁寧に準備実施してきたことに感謝します。今後とも子どもの笑顔のために、励んでいきたいと思います。



# わが町で NPO 事業で 私がねがうネットワークのかたち



子どものいのちを守る人の輪のネットワーク

## 「虐待にストップ！子どものいのちを守る応援団」

(特)子育てネットワークゆくくく 板垣光子



子どもへの「虐待」をストップするためには、行政、各専門機関に、地域の方々の力が加われば、子育てが孤立することなく、地域みんなで子どもと親を見守り、子育てしやすい街づくりに変えていけると確信しています。現在は、総勢 50 人のスタッフで、野田市から、子育て支援拠点事業、二川つどいの広場を受託し、預かり事業、家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」、こども食堂「おかわり」 ゆくくくを実施しています。

### ◆団体のミッション・私の願い

すべての子どもが、しあわせに生きる権利が保障される地域社会づくり。何のために活動するのか毎年、年頭に基本にたち返り、「子どもは、何があろうとも、しあわせで生きなければならぬ！」と強く思ってきました。子どもがしあわせに生きる権利が保障されていくために、子どもを持つ親が、子どもの健やかな育ちを願う子育てが出来るような手立て」を応援していくことです。

### ◆わが町での子育て支援環境を考える

子育て中の親が、元気に、自分の子育てに自信を持っていれば、子どもは健やかに育っていきます。そのために、できることは何かを、みんなで考え合い、実践してきた毎日でした。また、日々思うことは、子どもをとりまく社会の中で、子どもが親不孝と思う行動は何かと突き詰めていくと、“親より先に死んではいけないよ”ではないだろうかと考えます。

### ◆野田市での虐待死事件を契機に

虐待死に至る行為は、一概に、虐待は親の責任だけでとらえることなく、いろいろな社会的要因からとらえて、虐待を防止し、軽減していくことが大事です。2019 年に起きた野田市の虐待死事件を機に、虐待にストップをかけるには、地域の子どものまわりに住む大人一人ひとりの関わり方が「要」であり、何か気になったりしたら、一声かけあうことでした。

### ◆「地域コミュニティ力を強める」課題が明確化

「泣いている子どもが目の前にいたら、虐待されている子どもがいたら、見て見ぬふりをしないで一声かけられる大人になろうよ」 そうすることで、子どもたちに対する地域の目はやさしくなります。未来ある子どもたちの成長発達を手助けをするのが親であり、まわりの大人们です。子どものしあわせは、社会全体で育て、大人にはその責務があります。



地域に根差した子どもを真ん中にした事業

## 「子どもたちが笑顔になる活動のネットワーク」

(特)四街道こどもネットワーク 萱沼左智子



四街道市が NPO など地域の団体に委託する「放課後子ども教室」を受託し、今年で 16 年になります。年度始めにも、年 4 回の体験活動時にも、市内 12 小学校を直接訪問し、先生方に直接お会いして参加者を募集します。こうして毎週水・金に実施、「子どもを真ん中」の子どもの居場所として定着してきました。

### ★団体のミッション・私の願い

子どもが自ら育つ事を応援するために、地域の人と関わり合いながら文化的な体験活動を行っています。

### ★市や病院との信頼関係 繼続と人材づくり

「放課後子ども教室」は、行政とのネットワークとしては、毎年、前期報告書提出の時期、9 月に次年度の予算取りのための継続できるかどうかの打診が届き、スタッフ会議で検討し申請します。

四街道市の下志津病院には長期入院の子どもたちが生活しながら治療を受けています。2012 年より子ども劇場千葉県センターと共に「笑顔の贈り物事業 工作ワーク」を届けています。病児の子どもたちの状況やニーズを把握し、病院スタッフと打ち合わせ、試作を何度も繰り返し当日に臨みます。専門性を身につけ、調整や連絡をするコーディネーターやスタッフ等の人材も増えています。

### ★事業で大事にしてきたこと

「放課後子ども教室」は、平日の活動拠点は児童公園を併設している集会所で、学校や塾の宿題や室内遊びをし、児童公園で自由に外遊びをします。年 4 回の休日体験企画も、ふだんは経験できない遊びができる大人気です。

「笑顔の贈り物事業」は、病室でもできる簡単で魅力的な工作を届けています。入院している子どもたちの日々の状況を思い浮かべながら、工作内容を吟味しています。

子どもたちが満足し、興味を持って楽しめるように体験やワークのわずかな時間の中で信頼関係を築けるように心がけています。地域に根差した、「子どもを真ん中」の、子どもたちが笑顔になる活動を、これからも心に刻みながら続けていきたいと思っています。

# ミッションを具体化し、その実現のために 手をつなぐ



はじめてのベイビーシアター

## 『千葉市 6 区巡回公演への挑戦』に奮闘中 (特)千葉中央おやこ劇場 大塚るい



新規事業への理解を得ること、前例のない事業連携の際の行政の固く重い扉を開くのは容易ではありません。0歳～3歳児までの親子が芸術と出会うこの事業は、乳幼児期の子育て支援でもあり、行政との連携は必須です。戦略を練り具体的な行動計画を立て、まずは千葉市の関連部署を訪問しました。数年かけて趣旨に賛同し、手をつないで一緒に推進してくれる団体・人のネットワークづくりを目指しています。ただ今事業進行中！

### ■事業のねらい・めざしていること

やりたいけど赤字になる…と、ベイビーシアターはなかなか取り組むことができませんでしたが、今年度は補助金を申請し、千葉市 6 区で実施しよう！と計画しました。

乳幼児のためのプログラムを研究している「プロの芸術家」によるコンサートに参加することで、親子の絆を深める・乳幼児が持っている感じるチカラを発見する・未来の「観客層」を育成することを目的としています。

NPO 法人設立より 20 年目を迎えた 2022 年度は『音楽』つまりオトを楽しむことをテーマにしています。

### ■各区のコミュニティセンター 抽選無しで会場確保実現

1月から準備を開始。まずは会場確保のため、市内のコミュニティセンターを管轄する「千葉市○○区地域振興課」へ、理事長が企画書を持参し、訪問しました。文化振興課を通して、各区地域振興課へ依頼文を提出することで、各区のコミュニティセンターは、抽選無しで会場確保をしてくれることになりました。(本来は 2 か月前に抽選) 次に出演者との交渉・日程調整などを行い、6月末に補助金を申請。2回差し戻されましたが、その間に分業してチラシの原稿を作成・クレジットカード決済(peatix)準備等々。

### ■ 1か所実施しました！

日時：11月 12 日（土）11:00～12:10（楽器体験タイムを含む）

会場：ハーモニーホール  
(中央区蘇我 CC 分館)

作品名：はじめてのオーケストラ  
(8名編成)

演出が良いためか？それほど苦労せず 150 名超の参加がありました。が！あと 5 か所。平日開催の区は特に苦戦しています。補助金交付決定から約 2 か月間という宣伝期間の短さの中で、知らない地域でも誰かとつながれないか？を試行錯誤中。

千葉市は広すぎる…。6 区の行政訪問で実感したことです。挑戦あるのみ。



行政との連携で実施する「0歳～2歳児とその親が笑顔になる支援」事業

## 赤ちゃんの力でみんなが笑顔に！



(特)子ども劇場千葉県センター 買場都明

WAM の助成金を 3 年間継続して獲得し、3 年計画で事業規模や事業内容を充実・発展させ、共感・信頼・事業推進と継続のネットワークを拡げて実施しています。

### ■事業のねらい・めざしていること

- ①プロによる乳幼児のための芸術的手法のプログラムが、0歳からの子育て支援への有効性を、行政や社会に理解してもらう。
- ②市町村行政の子育て支援施策に反映し、財源をつけ、市民と共に事業を推進し継続していく。

●3年間の延べ支援対象者数：1,723 人(乳幼児 723 人 保護者 597 人 施設保育士 321 人 行政職員 82 人 2022 年 9 月時点)

●連携団体：令和 2 年度：17 団体 個人 7 人 市町村 10 令和 3 年度：24 団体 個人 9 人 市町村 15

令和 4 年度：29 团体 個人 11 人 市町村 18 マスコミ

●対象地域：令和 2 年度：10 市 10 か所 令和 3 年度：17 市 17 カ所 令和 4 年度：18 市 30 カ所実施中

### ネットワークのポイント1 共感の拡がり

市町村行政職員にワークの現場への参加を働きかけた。0歳～2歳の子どもの成長発達への発見と気づき、赤ちゃんの反応に驚き・感動し、目から鱗状態だった。感性の芽が育つ赤ちゃん期には、芸術的なプログラムが有効なこと、親子のふれあう姿を見てリアル感のある共感のネットワークを拡げた。実施体制も多分野で構成した。

### ネットワークのポイント2 事業内容と団体への信頼

プロによるワークは芸術性や、癒しや安心のメッセージ性が高く、赤ちゃんや保護者を一瞬に引きつける。保護者の事業内容への「満足度やまた参加したい」は 100%。また、当団体による 54 市町村を訪問しての事業説明、丁寧なコーディネートを誠実に行い、当団体への信頼を得てきたこともポイント。

### ネットワークのポイント3 成果の共有と社会発信

100%回収した参加者アンケートやヒアリングのデータを積み上げ、客観性のある評価や分析をしている。成果を社会に発信する手法として成果報告会を開き、成果や課題、提言を行う。当事者からの発信は説得力をもって共有共感され、公益のための事業であることを認識する場になっている。

体験の風をおこそう

# \*アート\*交流体験

## 出前で届ける子どものあそび

子どもがプロの芸術家と出会い、ともに活動することで、自分の中にある可能性を広げ、舞台芸術への興味と関心を高めることを目的に、県内2か所で実施しました。秋晴れの中、安心安全な場所で心身を発散し、思いっきり遊びました。



あ～楽しかった！こんなに遊んだの久しぶり！

### 四街道会場

- ◆11月5日(土)10:00～15:30 四街道市中央公園
- ◆プログラム
  - ①はじけて踊ろうダンスワーク 指導者：安西真幸 安西千沙 宇野京子 大塚るい 中村幸恵
  - ②けん玉・コマ回しに挑戦 指導者：こまのたけちゃん 鈴木佳子 綿貫のばら 棚田純子 白鳥みゆき
- ◆参加者：子ども44人 大人23人
- ◆四街道会場  
会場は地域の子どもたちが日常遊ぶ公園。四街道こどもネットワークの全面協力もあり、当日はたくさんのお母さんたちが集まりました。

### 八千代会場

- ◇10月22日(土) 10:00～15:00 八千代市蓮生寺
- ◇プログラム
  - ①「表現遊び」 指導者：大潤弘幸 宇野京子 中村幸恵 大塚るい
  - ②「こまのたけちゃん」 指導者：こまのたけちゃん 白鳥みゆき 鈴木佳子 綿貫のばら 棚田純子
- ◇参加者：子ども37人 大人22人
- ◇八千代会場  
地域のイベントなどに門戸を開いているお寺をお借りし、実施しました。子どもネット八千代の協力で子どもたちに声かけができました。



それまでお母さんの陰に隠れるよううに参加していたおとなしそうな女の子。知っている曲が始まつたときに、まーちゃんの目の前に来てジャンプ、ジャンプで元気よく最後まで嬉しそうに踊った。

じやんけん列車で緊張がほぐれ笑顔が出る。めんどくせーダンスの振付けを子どもたちから募集。手をぶらぶら、「めんどくせー」「お、いいね！みんなもマネしよう！」とまーちゃんの掛け声でみんなで手をグラグラ。小さな男の子が幼稚園で踊つたことがある音楽で、いきなりまーちゃんの目の前でダンスを見せた。これまでとほうつて変わった真剣な表情で、キレキレのダンスを披露してくれた。「見て、僕、踊れるよ！」と言わんばかり。みんなから大拍手！男の子は大満足。



たくさん踊ったよ！またやりたい！

落ち葉を集め、ミツキーマウスの歌とダンス。頭に落ち葉をかざし、楽しそうに踊つた。みんなで教えてくれた。「あれ、こんなんだつこ。6年生の女子」「45秒でなにができる」の振付を教えてくれた。「たつけ」とかいながらも音楽に乗つて踊る。知っている曲をどんどんリクエストしてもらいみんなでダンス。「ダンスの輪」ができた。

### 安西 ダンス

ジャンケン列車／「踊るぽんぽこりん／踊って足じやんけん／ダンスを作つてみよう／みんなのリクエスト曲で踊ろう！／葉っぱでダンス(ジャンボリーミッキー)

#### 【子どものアンケート】

- ・おどることがたのしかった。  
またやりたい
- ・きんちょうしたけど、たくさんダンスをおぼえてたのしかった
- ・楽しかった。またやりたい
- ・いろんな歌を入れてほしい



な顔。普段竹とんぼは強く飛ばすと外をきいて、何度もチャレンジしていなかった女兒。最後は思うように飛ばせるようになりちょっと得意げた。

けん玉の技を紹介、たけちゃんが「むちやくちや練習してうまくなったよ」と話してくれた。

大きなけん玉が出てきたら「おー！」と声が上がった。いちばん小さいけん玉をやつてほしいと言われ、「！」と言いながら挑戦してくれる。成功すると拍手がおこつた。



## よかったです、あきらめないで！コマが回せた！

みんなでコマ回し、まずはひもをかけるところ。「難しい！」と男子の中には「今日中にできるよ」とたけちゃんが励ます。「ひもがちやんとまけたらできるんだよ」「できなさい」となんだか打ちひしがれたような姿。でも何回も挑戦していた。

コマが止まりかけユラユラしているのを見て、たけちゃんが「コマが酔っぱらっちゃったね」と言うと「父ちゃんみたい」と男子が言つた。

ひものかけ方を教えてもらつて何回も挑戦やつと回る「やつた！」とうれしそうな笑顔。「人生初、よかつた！あきらめないで！」と男の子に嬉しそうな笑顔がでた。

リーダーは誰だ。「リーダーになりたい人？」と大潤さんが聞くと「はい！！」とみんな元気に手を上げた。鬼に見つからないように「うふふ」と笑いながらまねをしてい

フルーツバスケット、お題は、自転車のマスク、女の人、2年生、おばさん、お花の好きな人。「女人！」と言われ席取りが始まつたときに男の子が「女人多すぎないかー！」といって、みんな大笑い。緊張がほぐれた。



## いちばん楽しかったのはかくれんぼ！



大潤さんが2才の女の子をリーダーにすると、みんなで大笑い。2才のリーダーは自覚なく、手をあげたり、うろうろしたり、と好きなように動く。みんなまねをしようと一生懸命になる。鬼はついにリーダーがわからずじまい。

大潤さんが「休憩しよう！」と言ふとさっさと水分を取り、「もう、早くやろうよ！！」とせかす。

大潤さんが「なりきりかくれんぼ。体を漢字で表すアイディアがうける。山、木になつる。ばんざーいがグリコ。木になつたり、椅子と机になつたり、ダンゴムシにも。「僕を注目して！あてて！」と言わんばかり。大潤さんに当てもらつて嬉しい顔。

一番楽しかったのはかくれんぼ！と教えてくれた子は、目がキラキラしていた。

### たけちゃん

けん玉紹介と実演/こまの紹介/南京玉すだれ/みんなで体験してみよう

#### 【子どものアンケート】

- ・中国コマがたのしかった
- ・うまくできるかしんぱいだった
- ・玉すだれで魚釣りをしたとき、人間がつれたのが乐しかったです
- ・けん玉をできるようになるコツを知りたい

### 大潤ワーク

フルーツバスケット/なりきりかくれんぼ/だるまさんが転んだ

#### 【子どものアンケート】

- ・たのしいから、また来てやりたいです
- ・ドキドキした、ちょっとはずかしかった
- ・友だちができる、かくれんぼもできてたのしかったです



# 情報アラカルト



## チャイルドライン千葉 出前講座

チャイルドライン千葉では、子どものリアルな声や傾向(プライバシーに配慮して)、背景に垣間見える社会をお話しし、子どもたちからチャイルドラインにどんな声が届いているかを知っていただくと共にワークショップ、「子どもの権利ノート」の豆本づくりなどを体験する「出前講座」を実施しています。子どもの権利条約と共にチャイルドラインから見える子どもの現状を知る講座を是非、ご活用ください。

### NPO 法人流山おやこ劇場で開催

「子ども向け講座」と「大人向け講座」

日時：2023年1月15日（日）10:00～15:30

会場：流山市南流山センター

内容：知って、感じて、考えてみよう！

千葉県版「子どもの権利ノート」

「チャイルドラインの子どものきもち」



## 第15期受け手ボランティア養成講座

回	日程予定	内容
1 公開講座	2023.3月	『子どもの今を知る』
2 公開講座	3月	『子どもの心に寄り添う』
3 公開講座	4月	『子どもの権利』
4 公開講座	5月	『思春期の性』
5	6月	『チャイルドラインについて』 歴史・理念・子どもの声
6	6月	『チャイルドラインの傾聴とは』
7	7月	技法とロールプレイ/傾聴ワーク 1
8	7月	技法とロールプレイ/傾聴ワーク 2
9	8月	技法とロールプレイ/傾聴ワーク 3
10	8月	受け手ボランティア修了式 先輩受け手に聞く オリエンテーション チャイルドラインの受け手とは
11	9月	現場体験研修
12	10月	インター研修

会場：船橋市・千葉市内 \*全12回 12,000円

### つかいみちが選べるテーマ選択募金

#### 「赤い羽根共同募金」



今年も皆さまのご支援をお願いいたします。

「2番 子どもに対する支援」では、チャイルドライン千葉に支援されます。

「3番 子育てに対する支援」では、ママパパラインちば・乳幼児のためのおしばいに支援されます。

受付期間：2022年10月1日から2023年3月31日

振込み用紙付きチラシをお届けしますので、ご協力をお願いします。

## ママパパライン全国キャンペーン

(全国7か所で 6日間開催)

2023.2.13(月)～2.18(土) 10:00～16:00

毎週金曜日 10:00～16:00 の開設に加え、全国

7所で6日間同時に開設します。(2023.2.13

(月)～2.18(土) 10:00～16:00) 子育て中の養育者の不安や悩み、イライラなど、誰にも言えなくて、こんな些細な事と一人で抱え込んでいませんか。是非、ママパパラインにお電話してみてください。電話だから話せることもあります。

あなたをひとりにしない・させない！「ママパパライン」

### 「ママパパラインちば」<sup>®</sup>



子どもをもつママ・パパ・家庭の子育ての悩みや不安な気持ちを電話でお聞きします。なまえ・住所などはおきしません。安心してゆっくりおはなし下さい。電話だからこそ何でも言える。気軽にダイヤルを！

043-204-9390

毎週金曜日 10:00～16:00

キャンペーン：2023年2月13日(月)～2月18日(土)

6日間毎日 10:00～16:00

## 2022年度 54市町村行政訪問

千葉県内54市町村を訪問する「行政訪問」が始まり、行政とNPOが対面する貴重な訪問となっています。

### <教育委員会>

- ・チャイルドライン、ママパパラインのカードを各区市町村の教育委員会を通じて全ての小学校へ配布を依頼します。毎年快諾いただけています。
- ・学校への芸術家派遣事業やチャイルドラインなどから、子どもの状況について意見交換をします。

### <子育て支援課>

- ・ママパパラインの広報周知のため、カード配布とポスターを支援施設や保育所等に掲示をお願いします。市町村での子育て等の状況をお聞きし、NPOとして何が連携できるのか意見交換します。
- ・ママパパラインの養育者の声、0歳～2歳の子どもの育ちの重要性について共有し連携します。

## 2022年度 子ども育成支援事業 「読売光と愛の事業団」助成を頂きました



「傾聴ラインの受け手ボランティア傾聴力アップ研修」事業として、チャイルドライン千葉とママパパラインちばの受け手ボランティアの研修を実施していきます。

## 第19回千葉県子どもの人権懇話会

聴いてほしい…辛いこと・困っていること・不安なこと  
～子ども・若者の今を聞きうけとめたい～

日時：11月6日（日）

14:00～16:00

会場：千葉市きぼーる3F  
子ども交流館アリーナ

参加者：96人

児童養護施設から巣立つて自活する若者や今はまだ施設で生活する高校生、そして同世代の若者たちが出会い、働くことや相談相手、安心できる居場所などについて、今 の気持ちを話してもらいました。

## ★★★Aさん 男 大学生★★★

施設での生活は賑やかで楽しかったので退所する時は寂しかった。進学してからは新しく友だちが出来てさみしさは解消。たまに施設に戻ったりしている。奨学金を申請したので経済面は大丈夫だったが余暇のお金をどのくらい使ったらいいか、税金とかどう払えばいいか分からず、生活面では仲いい職員に相談していた。掃除の仕方、ご飯の作り方とか生活的な部分も施設にいる間に身につけられた方が一人暮らし始めるときには楽だなと思う。困ったことが相談できること大事。施設の職員には子どもたちにとって相談しやすい存在であってほしい。給付金とか金銭面の支援を卒園する前に行ってくれる事業があつたら大学が併願できた。

## ★★★Bさん 女 大学生★★★

一人暮らしする前は頼れる人が身近にいて良かった。どうにかならないこともあるので、事前に調べたり聞いたりして市役所の手続きとか自分でやることが多かった。就職希望だったが資格を取りたくて大学の情報を自分で調べた。何か言われるかなと思ったけど自分の人生っていうのもあって進路変更した。主に給付型の申請を手伝ってもらって、奨学金をもらえるようになった。学費や奨学金のことも職員に相談してお金の管理をしている。困ったり不安なこと、経済面のことで大丈夫かなとか使いすぎているかとか、職員や大学の助言教師に相談したり奨学金の団体の面談の時に話をしたりしている。介護福祉士の資格を取ることが目標で今を過ごしている。これからも職員や自分がかかわっている団体の人たちに一斉に相談する。

## ★★★Dさん 男 社会人★★★

いろいろと迷惑をかけた悪ガキだったがいろんな人に助けてもらった。就職して社会人としてやっていき、結婚して子どももでき、家も買って人生として順調な道のりを通っているのかな。これからは子どものために生きていくという道のりに乗れた。18歳で選択肢として就職を選んだ理由として奨学金は借金になる。借金がない状態で働き始めていくのがいいと思って働き始めた。専門や大学にいけたなら将来の選択肢が広がったのかなあ。高卒と大卒では年収が違ってくる。就職したときは会社の寮にはいれたが2年後でアパートを借りることになった。保証人が要るという常識や住民税とか大人として当たり前のことを知らなかった。ちょっとしたことは施設の人は忙しいので聞きづらい。自分で調べる力が必要と思う。



## 子ども若者によるトークセッション



## ★★★Cさん 女 社会人★★★

18歳で卒園してすぐに就職、3年後、国の訓練制度を利用して保育士専門学校に通った。家族が居ないので卒園してすぐに寮で一人暮らし。専門学校は若人支援機構の力をかり会社の寮で一人暮らし。初めての一人暮らしだったので水道料金の支払い方がわからなかつた。施設にいるときは受診券で病院に通っていたので0円で直してもらえるところと思っていた。社会に出て、当たり前のことを知らなかつた。金銭面、生活面で高校に入る前からやつてもいいくらい。生活面に関しては掃除、料理、洗濯はやつてきたことだったので不便はなかつた。金銭面等で困ったことが何度かあったが必ず自分で考えてから相談する。社会人5年目。自分で考えて行動するのは、1人で生活するうえでは大切なことだ。

## ★★★Eさん 男 高校生★★★

昼間は自宅、夜間は高校に通っている。小・中は普通の学校。中学校にはエレベーターがなくトイレも狭く、隣町の中学校は設備もあったのでアパートを借りて通つた。高校受験ではやりたいことがあり情報処理科のある全日制を受験したが不合格になつた。障がい者差別と思った。他の高校も学校の対応が悪く受験を諦めた。2次募集で受けた学校では車いすの人が通っていたので階段昇降機や障害者トイレは整つていたのに、本校は人権と生命を担保できる設備はないと言われ総合的に判断して不合格と言われた。今、通つて定時制に受けた、障害に理解のある先生がいるし友達も理解があるが、最初のころは何で自分だけ、夜、友達もなく通つているのか、転学も認められずメンタルも折れそうだ。

## ★★★Eさん 女 高校生★★★

## ダンスパフォーマンス

来年はダンスの専門学校に通います！



## だいじょうぶ！できる！ 本気になりさえすれば！ いちかわ市民ミュージカル第10回記念公演「NEXT!～いちかわ黄金伝説」

NPO 法人いちかわ市民文化ネットワーク代表 吉原廣（作・演出）

### ◆「三本の柱」を目的に、歩んだ20年

いちかわ市民ミュージカル（いちミュー）の目的

- ① 子どもからお年寄りまでの三世代市民の芸術文化創造と交流
- ② 地域を知ること。
- ③ 文化的なまちづくりに寄与すること。

2002年より、2年に一度、出演俳優320人～130人。予算1600万～1200万円。作・演出はすべて僕のオリジナルミュージカルで、20年目となった2022年9月24日（土）、市川市文化会館大ホールにて、第10回記念公演が開催され好評を得ました。

上記の数字が減っていくのは少子化と文化活動が多様化し分散していったため。これは仕方ありません。問題は「20年間」という活動の長さ。

50代初めて関わった僕も高齢者。俳優の名前も覚えきれなくて“引退”を意識した今回の公演テーマは「地域の芸術文化活動の歴史の検証」。“わが街いちかわ”的戦後の飢えと混乱の中から、どのように市民文化活動が台頭していったかを、市川交響楽団創設や松戸自主夜間中学開設など六つの活動例をオムニバス風に描いていきました。

### ◆コロナ禍で、4年の空白！

#### 演劇製作に必要な「戦略」はままならず

大衆受けするような面白いテーマではありません。初参加者が3割を占めた稽古場では、コロナ騒ぎで閉じられた子どもたちの心身を開放するのに時間がかかり、戸惑い気味の大人たちの表情も今一つ見えません。

おまけにコロナ。前回2018年の第9回公演「michio!～星野道夫物語」以来4年ぶりの復活とはいえ、時期的には無理を承知の企画ではあったのです。稽古半ばで第7波が拡大、稽古も中止となって、僕を含めて沢山の感染者が出ました。

一方、演劇制作には「戦略」が必要です。公演テーマに即した「制作戦略」を共有して、成果を追求していくしかねなりません。どんな団体に協力を呼びかけ、どんな質の協働ネットワークの輪を築いていくのか、そこに文化活動のダイナミックな感動が生まれるのですが、今回は確認が不十分でした。



そして関係者の高齢化問題。20年の間、さほど変わらない中心メンバーに様々な障害が出てきます。

“引継ぎ・継承”課題の克服は簡単ではありません。

### ◆「何がなんでも面白くしてやる！」 とラストスパート

本番まで一月余。このまま突き進むか中止にするか？赤字になつたらどうする？…決断が迫られます。そこから居直りました。「何がなんでも面白くしてやる！」そう望んだ時から、稽古場が燃えだしました。テーマが俳優に浸透し、俄然表情が輝きました。か細かった子どもたちの声が力を増し、ダイナミックなダンスの動きへと成長していきます。「昨日よりも今日、もっと努力すれば、明日はもっと！」という創造的雰囲気が俳優全員に実感できるように変化しました。

結果、本番2回（4回予定が）の舞台成果は大満足（いつものことですが）。観客の反応も上々でした。

老若男女の市民俳優たちの達成感は絶大でした。何より、5か月間の「子どもの成長」をしっかりと目撃できたことほどの感動はありません。これだから、アマチュア芸術文化活動はやめられない。僕自身も生き返った気分です。

### ◆そしてNEXT!? 問題山積でも、

#### 閉塞状況を開拓できるのは「冒険心」かも

とはいって、高齢化、マンネリ、引継ぎ・継承、文化戦略、成果課題など問題山積なのはどこでも一緒。でも、今回無理を承知で実践したことで、より意識できたのではないか？ 現在の閉塞状況を開拓するのはこうした冒険心かもしれない。

「面白い活動は、人を街を、元気にする！」

### 編集後記

私はこの半年、わが街の海と川を題材にした「まち劇」づくりに、子どもたちと一緒に参加しました。子どもは自ら育とうとするエネルギーを持っていて、周りの人や物語と出合って実際に生き活きと、自由に表現していきます。劇に限らず、文化的な体験は価値があることを実感しています。「子どもが文化芸術に触れることができる環境づくり」に尽力した功績で、子ども劇場千葉県センターは千葉県教育功労者の表彰を受けました。教育功労賞は、学校関係や教師の受賞者が多い賞ですが、芸術部文化分野はまだまだ少ないです。今後もっと市民も対等に、多く選ばれていくことを願います。（岡田記）